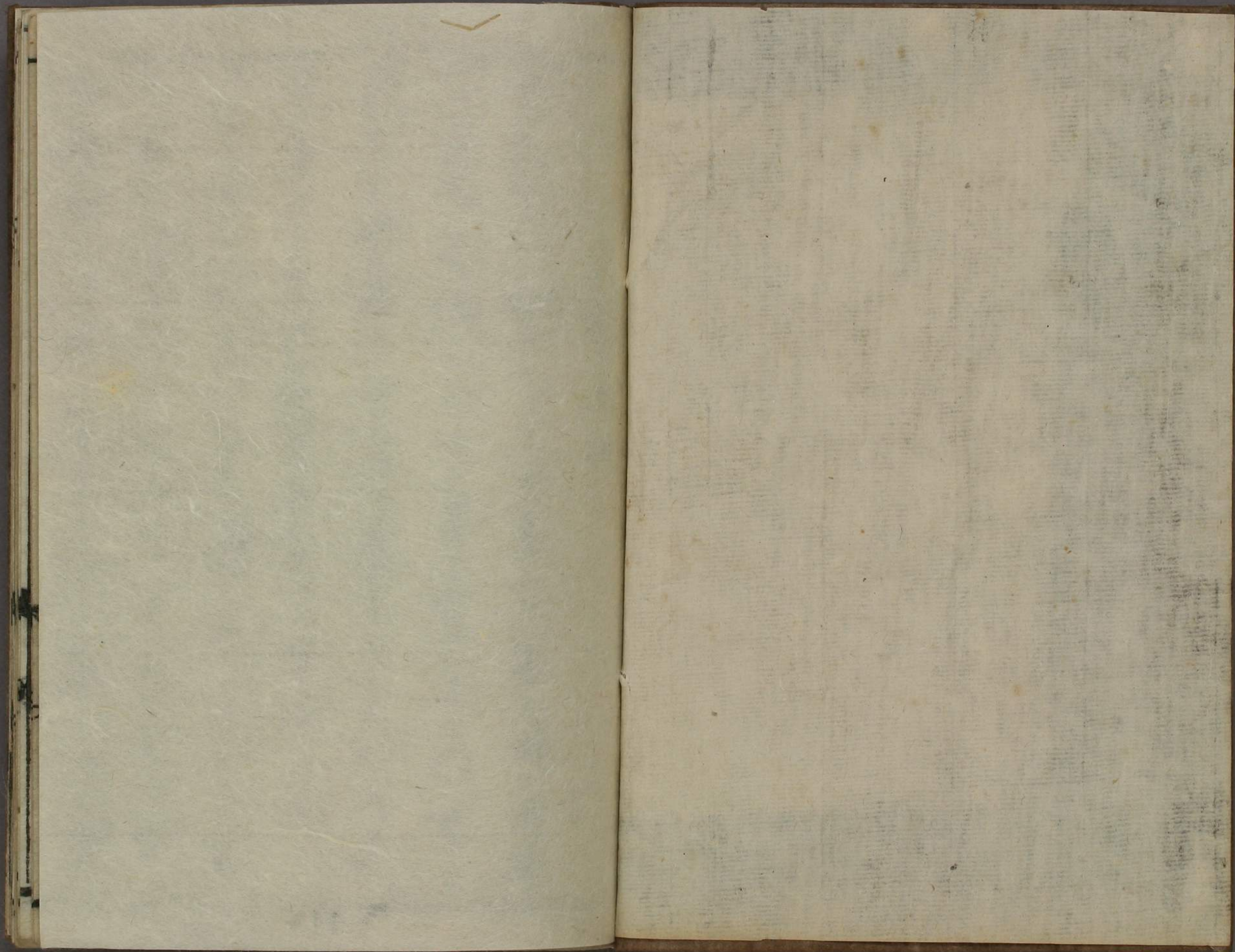


大地震録

上下 宇田川玄奘手澤本

洋学文庫
文庫8
C 41





大地震記録



以て文政才之頃のやうに七月二日孟七時京都
大地震おつて殆どつくと申す可くはし切き
後て大地震と申すやまをうく家右側
より申すは只思ひにけなく皆地に伏し
身は伏し柱をいだき垣を杖にするも皆
て身の金まきりしのむらや老人の身
大及心しとのまるとすはく縁を板を並べ

たてはあて皆大なるか人相古家古土花
皆位とさり神社仏閣石を井石焼瓦成
八築地す塔の例として新発たしく文書の
土花たりしむりへの入りのありし松の法を
高松下寛例れ徳の徳まはしん又あり
心持たさみて戸のまきり也後ハ皆一統中
言亦ん致地ま人より中み成り戸のまきり
七堵り宙とくりす寸さ中ハ只ドロくとありたべ
心も持てる子魂とさり是所を治しううたへ
云わう周素路ぐも乃所一や二口あつたは
まけあをさうんとすま子扱まう老人を
思ひ扱をりへを扱とあり又繩を引り
ひしろとさほひくは中皆あ明し一町し
まハ厳ま子言張をまて家並子けあへ
を納りて身ハ陳ををのり胸あてり

地子

くす 権竹をとりしをき友 黙談へんあま
あつしお互いさくころび無乃 枕え一人の
遠い事をもつとありし井のふは皆濁まり
かまのおさまさるるお八丈及まき糸をりし
証をよしくし 海をくし 漸今物のんとと
こども心は我とろ子にドクしありたる
西のよ八まの権り竹を川下りし 必用心
船乗りしと 岩く 何おもいり 老人の来

てまふひあたくありしときあま

ゆくともよりのぬきし 必要石

麻子の神のありん 改りま

と 笠を写し 三合の杖或ハ大極むしうま 張解

うたいたくも 天馬を神道のほ杖をこりうま

載ま 籠まま ちひの 秘文をまきみ 神老人

病ん 子供と抱し みの穴を心 秘法もくた 中

家こちまき 御さあり又おるたまき ね 帰る 押

まてあやめぬら夢まびすくくすのあふ
地をすまふけりんるま迷ひいと心げこひて
うねも東をまみちまらぬら日もさうかバ
望やうんとてぬり人の旅をさう信語
ま、旅をさうまもあふたに、火用心盗賊
地を心けてゆめかなく日お心をぬる見ん天候
盗流をくさうすのありて捕まもあやち
盗心もたう、悪業六天の罪報前たか所く
家並子あ鉄地をさう(あ)ねんをさうりあ子
あ荒さくすもさうああおのこも古はさあ
あを汲をこびのさもさう—おおんあ教
或、地一舎地をさうび老人子仇のさを川
連のさ有三百あもまさう—ああはあ
うあや、曇りて雨をさうと、偉あはあ
あ一天雲やけとああで一人あをさうり
あさあさう—ああさあをさう人のあ

何はらんか申もドロ〜と時をたがげ、や
たふた、又古家古ま花のたききうらま枝を
つきはらぐらう〜〜〜のたうハおいたう駿交おいたう
俄ひたひたの家づ〜する人ちちこちまう〜〜〜して
甲も移がくおハハ〜あう若もガ〜身の寄ま
か〜たきまどらむらちり〜とあう〜ものお
この路ちか〜もあ〜氏六の七のハハ枝も〜
果い〜酒ハガ〜も降〜氏おハハ時七の時
大を〜〜ドロ〜と申うまう時大た〜又お
てまゆ時も是が七日七枝のを〜あ〜
〜い形い〜九日〜あう〜、ま〜ドロ〜し〜
〜あう〜時〜代未〜のた〜
神を移り仏を信〜身を信む〜地ち
お〜心けの文〜
うみあうハあたま〜ん地ち〜
〜流り〜〜天のおあ〜

予が懐けたるハ後偏を穿す 世多岐ハ今々の
 大夏他國之又通之者 予人ハ小冊之
 六〇〇 ね分り止又後世にのこるをまばら
 心持もあんしを淨く身心こころまらる

文政十三年

寅七月

洛住 東麻新代

みの平坂



下

地震 奇談
 平安万歳集



大地裂下

又此地の理^{あはれ}ゆ^うなれば抽^ひ小^こ庭^ぢせ^は精^{せい}神^{しん}
強^{つよ}く^まば^はる^りゆ^うな^らばと^とど^もた^しり^ま
黒^{くろ}犬^{いぬ}子^この^あま^まを^あけ^のた^まき^糴と^うや
二日の大^{おほ}変^{へん}後^ご行^い腫^{しゅ}子^こ徹^{てつ}一^いか^のト^トク
も^も上^{かみ}を^ふ塞^ふぎ^たれ^より^の病^{あま}人^{びと}致^{いた}す^{あり}
中^{ちゆう}に^と辺^{へん}子^こ地^ち震^{しん}ゆ^り病^{びやう}年^{ねん}の^あま^まを^あま^まと^す
人^{ひと}も^もあ^り是^{こゝ}ハ^まは^はし^しく^く気^き乃^のち^ちり^りふ^ふて



病をりしれいよのあつんがむい老人の
狂待あり

庚寅七月二日事 從申上刺地震剛

最初寄集唱世直 狼狽菜原至線香

町屋家藏壁直落 寺社埒植柱共儻

婆母黃声念佛申 祖父書顔祈神憐

百姓離欽皆入敷 千頭捨船獨上塘

六地震動無仕様 上下騷動暮十方

初十日もがしドク時くひ初する十日よハ

より西たしと解お一板七時ドクと

大分剛ゆり十二日初ら日こまみ交へ時をたぐ

ドクと十三日ぶる六時のいたみたる

まう子雨をうけて時とあつく去のずり

ハ美子そききまきまきくあはけくせ

恥も拍去るふなれはまおどろき念

ゆへに我くと強りぬるもトハ

下
おたか土蔵のずり屋、八段あり、赤板
たきみ、従来、用心と張れ、やま、え、ひき
十四日、赤板比大を、は、く、七ツ、時、又、ト、ロ、と
晴、初、す、六、の、日、ハ、二、季、の、換、な、る、小、子、掛、の、
つ、よう、も、物、備、し、き、い、う、や、十五、日、あり
て、う、し、雨、降、お、し、中、も、又、ト、ロ、と、時、と
る、止、び、た、子、比、雲、お、し、て、仇、に、も、更、れ、ど
心、な、ら、ち、く、し、た、り、ル、ん、十、六、日、も、お、は、は、し、き

雨、お、れ、ば、る、し、大、変、より、を、根、尾、お、り、お、り
番、正、尾、崎、左、衛、門、侍、お、も、中、に、殺、ケ、赤、の、考、つ
ら、ひ、お、く、手、廻、り、糸、下、雨、お、り、し、て、
し、お、多、く、い、ま、り、又、七、段、の、傍、子、達、小、家、
去、の、す、り、お、ん、り、を、も、恐、れ、て、葉、ト、り、
し、て、お、か、し、他、お、し、泊、り、お、り、人、も、お、く
ある、し、十七、日、い、ま、び、雨、つ、し、し、時、ハ、つ、
か、く、晴、方、あり、て、日、之、考、る、西、小、縮、ま、り、か、

あり十八日朝より大雨おきりより雷
地震おきて雨ハ車軸を流すがぬく忽
か茂川堀川西院院桂川へ入てきてま
て川流の家へ入るく遠入て皆そ
踏初するふまは音河川へ流東清
の音羽の流の流れ居素る小川す
ふれ居るは実子多くおて川す
伏見御所御田向を所辺ハリけて大
供

まて人家の床より一尺も上へ
大なる油高あり地は
流れ込めてそ油くま
あまりて及そを込の
實、園り果しとやけ
崩れ倒るゝそ
どもあてそが止と
日本ハ神國とて美代
易の玉あり雷

地震ハ陰陽多火のたつひあてを初に
 おあつげ只去乃まごき亦去生金とてはれ
 てうももごきめぐる借借小雨降て地
 まり地震も細く世なをいとや
 五穀ハ豊他下も取獲のくおひ
 御代美楽とてたひうて
 天々下うごめまとおさほりて
 おひあつてうごめまおさほりて

京中町破損入用銀

凡そ町内月式拾中目宛より

凡銀八万六千中目

は金六五

凡金百三拾貳方二千〇七十六兩三歩貳朱

土藏破換 一統 千貳百八十

建家倒方 救志

件一 千様 小をお入く方救多

千外破換 救多 略

千社方の破換 千たつて 略

怪我人 千救志

文政十三^{庚寅}年

七月

洛住 東禄仍

京松系通新町西八町

みのや平三郎殿

六月十日夕方京師に参り

書翰字一

京師に参りて
 宗室の上を
 宗室の御
 一人の御
 とあるに
 屋敷の御
 通街路の御

ハめ部ふんしぬし人心は皆仰夫
園幸すて世し思ふ心の法也
キ底んつたをいれ而を伐失ひか
た成るものも昔のこも申すは法
徳て大碑して世若我忘るる事
のくまのりてつらふ時と重んじ
安んじ心はるこ十八の事し
の身り十たの心も毎十七八の
動りていれんこととや教りて

存しと世におる事すれ毎の事
中か志し始のこも家成樹す
烈しとすこころも申す事
士ありて世の事候はれし
多しと世をいれし心成れん
時候次をよめ候しんら
事しと世をいれし心成れん
世より丹心成れん
者候んはれしと世をいれし

かしましきこのころそ地のそを転動せり
固くはきこしんをし地を名るるしん
そ師の言を山とて地を名の根を
しそおのりかしく西の方より吹動し
よりの山をこしそを名りし地を名り
方しんをこし

寛弘八年十月

かまはしきこのころそ地のそを転動せり
固くはきこしんをし地を名るるしん
そ師の言を山とて地を名の根を
しそおのりかしく西の方より吹動し
よりの山をこしそを名りし地を名り
方しんをこし

